

## 5—6. 苫小牧寒地試験道路における走行実験

### ■平成 13 年度■

ランブルストリップスを実道のセンターライン上へ設置するために、一般道路利用者の走行実験を行い、安全性、受容性の確認、アンケートによる主観的評価を得た。実験は、平成 13 年 11 月に苫小牧寒地試験道路において一般道路利用者により、乗用車、二輪車、原付、自転車を使用して、ランブルストリップス上を走行して行った。試験施工したランブルストリップスの規格は、横断方向の幅が 350mm で、深さが 9mm、12mm、15mm の 3 種類である。被験者の走行状況のビデオ観測では、初めてランブルストリップス上を走行する時にブレーキを掛ける人も見られたが、特に危険な状況は、観測されなかった。

図 5-7 は、走行後に行った安全性に関するアンケートの集計結果である。ランブルストリップスの印象は、9mm、12mm、15mm の順に従って「危険」と回答した人の割合が多くなっている。ビデオで走行状況を観測した結果、深さ 15mm でも急ブレーキや急ハンドル、転倒と言った危険な状況は見られなかったが、騒音、振動の測定とアンケートの結果を検討し、自転車やバイクに対し、危険性が少なく、音や振動の警告効果もある程度高いことが期待される深さ 12mm の規格を実道へ施工する規格として提案した。

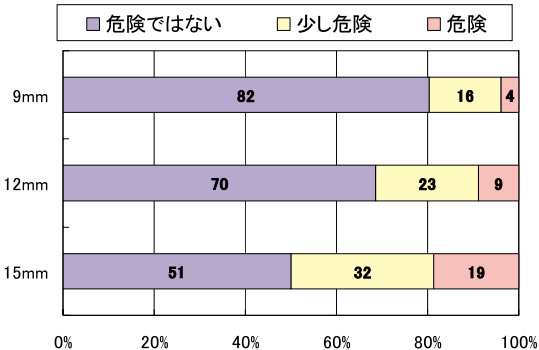


図 5-7. ランブルストリップス上を走行した時の安全性に関するアンケート集計結果 (N=102)